

【利島村】 校務DX計画

（校務DXに向けての方向性）

文部科学省より令和5年3月に、「GIGAスクール構想の下でのDXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」が示された。日本型学校教育を支える基盤としての校務DX（次世代の校務DX）の在り方等について、現状と課題を整理した上で、関係省庁の施策や中央教育審査会における検討の方向性と整合する形で、具体的なビジョンと講じるべき施策をまとめたもので、本村でもここで示された方向性に沿って校務DXを進めていく。

場所によって作業が制限されてしまう環境や紙ベースでのやりとりが中心な業務など、校務のさらなる情報化に向けて課題がある中で、これまでの取り組みを踏まえつつ、今後ますます重要になるデータ連携・利活用を中心に柔軟な環境整備を行っていく。

（これまでの取り組みと今後の対応）

本村では、東京都島しょ教育DX事業によりクラウド型校務支援システムの導入を行っており、汎用クラウドツールであるGWSやMicrosoft365の導入を行っている。システムを活用して情報伝達を円滑にするとともに、デジタル化することで情報の利活用の幅を広げることやペーパーレスを推進している。

教職員に対するICT利活用支援の充実も並行して行いながら、少しずつ校務DXを進めてきた。

今後は、教育の情報化について、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」を踏まえながら、教育委員会及び学校がより良い環境を実現するため、次に掲げる取り組みを推進していく。

①クラウドサービスの積極的な活用

授業支援ツール・備品管理・グループウェアなどの汎用クラウドツールと連携し、教職員間での臨機応変な情報共有、会議資料のペーパーレス化等の教職員の負担軽減、コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境等を構築を実現するため、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、教育現場の実情が反映されたクラウドサービスの活用を目指す。

校務支援システムと他のクラウドサービスとの連携や利活用を前提とした環境を作っていく。

②次世代の校務デジタル化に向けた各種データの活用

教育委員会及び学校が教育授業の質の向上や校務の効率化を行ってくために、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育関連データをそれぞれに権限を付与したうえで一元的に管理、運用できる環境の構築を目指す。

③FAX・押印の原則廃止

一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印が必要な書類があり、今後のクラウド環境を活用した校務DXを阻害してしまうことが懸念される。災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。